

『日本の伝統芸能と民族文化財を学ぶ』

(北見真知子先生)

- 《1》 探訪：第7回 彦根城博物館にて学ぶ
- 《2》 日時：2025(R07)年 11月12日(水) 10時~14時
- 《3》 場所：彦根城博物館
- 《4》 参加者：受講生:20名、CA:2名、北見先生、ガイド2名
- 《5》 概要：これまでは、座学や文楽劇場・能楽堂見学が主でしたが、今回は彦根城博物館にて古い能楽堂の見学や博物館所蔵の展示物を鑑賞しました。JRが大阪・京都間の踏切で車が立ち往生した関係で集合に若干遅れがでましたが、気持ちのよい晩秋？のなか愉しく散策・鑑賞することができました。
- 《6》 主な行程
- ① 集合場所・時間
JR彦根駅・西口 11時
(JRの遅延の影響で若干遅れがでました)
 - ② ガイドさんが2名につき10名ずつにわかれまして



- ③ 駅から彦根城の途中に佐和山城を望む



関ヶ原にも近く、交通の要衝に立地する城跡
石田三成のあと井伊家が継いだが、彦根城完成のあと廃城

④ 井伊大老の歌碑



暗殺される直前に読んだ歌が刻まれています。

⑤ 彦根城・佐和口の前でガイドさんから説明を受ける



⑥ 彦根城の特色ある石垣

左：鉢巻・腰巻石垣



右：登り石垣



- ⑦ 今日のメインである彦根城博物館
(博物館の中は残念ながら撮影禁止でした)



- ⑧ 能舞台 (博物館内)

中庭の能舞台を前に北見先生から井伊家と能楽・雅楽などとの関係について説明を受けました。部屋のなかに設置された能楽堂と違い、風雨にさらされているので、趣のある能楽堂で、ときおり能も実際に演じられるとのことでした。

井伊家は徳川家と強いつながりがあり、徳川家が好んだ「能・雅楽」などを歴代当主も（強く）愛好していた。

1800年に完成した能舞台も江戸城のそれを模したものである。

また能舞台の床下には音響効果を高めるため「甕」を置くことが多いが、ここでは「大きな漆喰舂」が設置されている。なお他の大名屋敷の能舞台にも「漆喰舂」が設置されていることが発見されている。



⑨ その他博物館の展示

- ・ 国宝の屏風 （これはレプリカとのこと）
- ・ 能面、能の装束
- ・ 雅楽器
- ・ 茶道具
- ・ 甲冑
- ・ 刀剣など
- ・ また儒教についての展示

⑩ 見学後の会食

レストラン弥千姫にて近江牛のワイン煮込みをいただいて解散となりました



《7》おわりに

CAさんは、教室での運営も大変だと思いますが、郊外学習ではガイドさんとの打ち合わせや、特に今回のようにJRの遅延などが発生すると気苦労が絶えないと思います。

無事に気持ちの良い見学・会食を楽しむことができました。

(写真については一部K様より提供いただきました)

(ブログ担当：5班i)